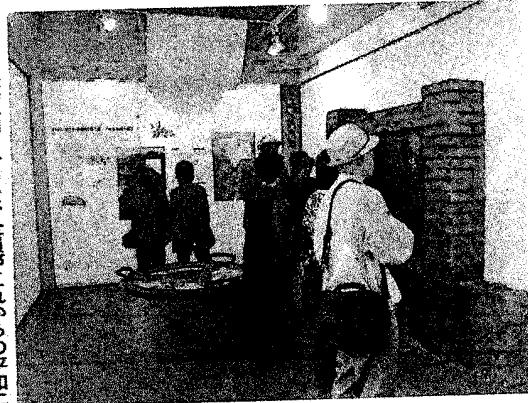


2014(平成26年)10月23日(木曜日)

守男

（現場）からの風



歴史的現実に向かうと、金真がこれからの平和について考えてしまつ

10月中旬、長野県長寿社会開発センター大北支部が開講した、長野県地域づくり委員会を訪ねる。塾を修了してお互い学んで行くこと願った仲間だ。その生徒たちは、これからも年を重ねる。

10月中旬、長野県長寿社会開発センター大北支部が開講した、長野県地域づくり委員会を訪ねる。塾を修了してお互い学んで行くこと願った仲間だ。その生徒たちは、これからも年を重ねる。

地域の歴史的遺産や文化的遺産が地域を活性化させることに関心を持ちませんか

「開拓」とは何だつたのだろうか、どの興味もあり研修会に参加した。展示内容は、中国太平洋戦争が終戦になり、軍隊から多くの若者が故郷に帰つてきた。しかし次第・三男

月に開館した施設だ。私の知る「開拓」は、太平洋戦争が終戦になり、軍隊から多くの若者が故郷に帰つてきた。しかし次第・三男

月に開館した施設だ。私の知る「開拓」は、太平洋戦争が終戻

た。当時の日本農村社会の貧困さ。当初満州に500万人の移住が計画のあった事。夢を抱き新天地を目指した青年たち。突然のソ連侵攻で戦場化した開拓地。日本・中国に多くいた犠牲者を出した歴史。展示された写真は、想像を超える貧困の姿。この困難さを

事も事実だが、開拓地に至った情熱には頭が下がる感想だった。

展示パネル「未来に向かって」の文面

の時代に問い合わせてみます。なぜ『満州』へ

いたのですか。今を

多くを語らなくて

もこれを読むだけで

心に訴えかける内容

だった。

しますか。日本と中国

の養育西派による対立の末の廃校。それから始まった地域の保全活動。児童・生徒・保護者を対象とした教室の開催。地域住民が学び合う「山本講座」の開催。南信州観光公社等との連携による活用。それが「山本」の中学校統合で地区内

の完成。地域の真剣な取り組みが、地域を生き生きとした現場に出合つたのが大きかった。

銀光などかかるかと言えば緑の無かった阿智村で大勢のお客様が訪れてくる。しかも何かと言えば、高齢者を第一

ゲットにした内容。知識が地域について必要な事を改めて知る。私たち天北地域にも光を取り戻す。お年寄りを与えれば輝く顔に生き生きとした現場に出合つたのが大きかった。

生かしてほしいと思つた研修でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白鳥村継上)

柱原学校応援団が展開していく活動の一コマだ。中学校統合で地区内

の女性スタッフが笑顔でお出迎え。案内され校舎に入る。廊下の壁写真の校舎と桜開

開のスナップで何処を訪れたか分かるほど予備知識の無い場所。

車場に到着する二人で唱歌を大合唱。年配の団体の方が、楽しげに大きな声で歌つてほ笑む。地域の文化をともだちにつぶぐ

車の音楽室に用意された